

1
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

国立公文書館	
分類	③ ④
配架番号	3 A
	14
	32-33

RESTRICTED

WDC No _____ Team _____ Scanner _____ Index No _____

382308 1038 Operation of Type 97 Medium Bomber, 1943

RESTRICTED

裏
面
白
紙

め
く
れ
ず

九七式中迫撃砲取扱法案

1035

昭和十八年八月
第一陸軍技術研究所調製

国立公文書館	
分類	
配架番号	32-33

九七式中迫撃砲取扱法目次

総説

第一篇

第一章

第一節

第二節

第三節

第四節

第五節

第六節

第七節

第八節

第九節

構造及機能

概説

砲身

連結架

方向照準機

高低照準機

脚

照準具

床板

属品

第二章

彈藥箱

第二篇

取

分解及結合

第一章

第一節

通則

第二節

運搬、為二行、分解

第三節

砲身

第四節

連結架

第五節

方向照準機

第六節

高低照準機

第七節

脚

第二章

放列布置及撤去

第三章

使用上、注意

第四章

射擊上、注意

第一節

射擊前、注意

第二節

射擊間、注意

第三節

射擊後、注意

第五章

運搬

第三篇

保存

第一章

手入

第一節

日常、手入

第二節

精密手入

第二章

檢査

附表第一

九七式中迫撃砲主要數量表

附表第二

同 屬品員數表

附表第三

同 車載區分表

九七式中迫撃砲取扱法 目次終

九七式中迫撃砲取扱法

総説

第一 本砲ハ間接照準ニ依リ有翼彈射撃ヲ特性トスル前装式ノ火砲ニシテ威力大ニシテ運搬輕易ナリ(車載)

本砲ノ主要數量 附表第一ノ如シ

第一篇 構造及機能

第一章 砲

第一節 概説

第二 本砲ハ凡ノ主要部ヨリナリ、之ニ所要ノ部品ヲ附ス、砲

身ハ滑腔砲身ニシテ前方ヲ連結架ニ托シ後端ハ床板ト

連結架ハ砲身前部ヲ抱キ左端ニ照準具ヲ装シ又内部ニ緩衝機ヲ收メ且方向照準機ヲ結合ス

結合ス

連結架ハ砲身前部ヲ抱キ左端ニ照準具ヲ装シ又内部ニ緩衝機ヲ收メ且方向照準機ヲ結合ス

結合ス

方向照準機ハ水平螺桿式ナリ
高低照準機ハ垂直螺桿式ニシテ二重ねじ式トス
脚ハ開脚式ニシテ上端ヲ連結架ニ托シ砲身ノ支台トス
照準具ハ眼鏡式ニシテ連結架左端ニ装セラル
本砲ハ鉄製ノ本体及木製ノ副床板ヨリナリ砲身後端ヲ支
ハ射撃衝力ニ堪ヘ得ルモノトス

不詳

第二節

第三 砲身ハ尾ノ主要部ヨリナル

砲身体、砲尾体、番飛機、
砲身体ハ概ネ等同ノ円筒
形ヲナシ、後端ニ是れねじヲ
刻シテ、砲尾体トノ結合ニ
供ス、又前方ニハ連結架ノ
抱ク部ヲ設ク
砲尾体ハ腕状部及球頭部
ヨリナリ、腕状部内周ニハ
めねじヲ刻シテ、砲身体ト
ノ結合ニ供シ、又内面中央
ハ突起部ヲ設ケテ、螺針突

出孔トナス又ノ上下部
 ニハ垂針準桿室ヲ貫キ砲
 身軸ト交ラシム球頭部ト
 床板ノ孔ニ結合セラルバ
 キ部ニシテ前後相対面ヲ
 平ニ削リ下端ニ塞止レヨ
 装シテ垂針室ヲ塞グ
 ハンキン銅製ノ円環ニ
 シテ砲身体砲尾体結合部
 ノ緊塞具トナス
 第四 垂発機ハ下図ノ如キ部
 品ヨリナル
 密針ハ円筒形ノ中央ニ短
 形ノ斜孔ヲ設ケ垂針準桿

ヲ貫通ス垂針準桿ハ上方
 ヲ挿入セラレ上部ニ安
 全筒ヲ結合スベキ鏝部ヲ
 有ス
 安全筒ハ内外周ニ鏝部ヲ
 有スル筒ニシテ外周ノモ
 ノハ砲尾体ノ相当室ニ結
 合スルニ供シ内周ノモノ
 ハ垂針準桿ノ上方鏝部ト
 ノ作用ニ依リ垂発機及
 安全装置トナスエトヲ得
 準爪ハ垂針準桿ト結合シ
 密針及ばぬ受ノ間ニ於テ
 其爪部ヲ密針後方ノ斜孔

はね受ハ準爪トノ間ニはねヲ介シテ重針準桿端ノ凸子ニ
駐止セラル

安全筒止ハ安全筒右側ニ砲尾体ヨリねじ込ミ安全筒外周
ノ断隔部ニ作用シテ之ガ回転制限並ニ駐定ニ供ス
塞ねじハ重針室後端ヲ閉塞ス

第五 重針機ノ機能

安全筒カ着火位置ニアルトキ重針準桿頭ヲ打撃スレバ重
針準桿ハ前方斜面ニ依リ^{重針ヲ}突出セシメテ重針行ヲ行フモノ
トス而シテ常時ハはねニ依リ重針準桿ハ圧上セラレ準爪
ノ斜面ヲ以テ重針ヲ後退セシメ置クモノトス
墜落ヲ行フニハ重針準桿頭ヲ押シ安全筒ノツマミ部ヲ墜
落ト印セル所ニ旋セバ重針ヲ突出セシメタル儘駐定スル
モノトス

重針装置ニシテアルモノヲ安全装置トナスニハ安全筒ノ
ツマミ部ヲ安全ト印セル線ニ旋回スベシ然ルトキハ安全
筒ハ其ノ内面ノ鏝部ヲ以テ重針準桿鏝部ニ鈎シ重針準桿
ノ昇降ヲ抑止シ重針ヲ後退シタル位置ニ止ムルモノトス

第三節 連結架

第六 連結架ハ左ノ主要部ヨリナル

連結架体連結板締メ桿緩衝機
連結架体ハ連結板ト相俟ツテ砲身前方ヲ抱キ且平行ニ貫
通セル二円孔ニ緩衝機ヲ結合シテ方向照準機ニ連絡シ左
方ニハ連結板ヲ右方ニハ締メ桿ヲ軸止ス
連結板ハ体ト對スル湾曲板ニシテ右方ニハ缺切部ヲ設ケ
締メ桿ニテ緊定スル如クス

第七

緩衝機ハ左右同構造ニシテ左ノ諸部ヨリナル
はね室心桿緩衝機ハ内坐管(甲)蓋ねじ座ねじ

は旧室ハ後方内側ニ鐸ヲ
有スル円筒ニシテ前方ニ
ハ誘導板ト托架ノ前方ヨ
リ蓋板トネジ着ケテ之
ヲ固定シ後方ヲ連結架体
ニ收容ス
心桿ハ旧室内ニ於テ底
板ニ駐定セラレ前端鐸
部ノ後面ニハ坐管甲ヲ後
方鐸部ノ旧室鐸部ニハ
坐管乙ヲ装シ其ノ兩坐管
間ニハ緩衝板ヲ圧装シ
テ常ニ兩者端ヲ底板及
蓋板内面ニ圧シテ連結
関係位置ヲ保ツ

第八 緩衝機ノ機能

緩衝機ハ発射時照準具
及照準機ニ及ボス後坐衝
力ノ影響ヲ緩和スルモノ
ニシテ彈丸発射セラル、
マ床板ハ通常沈下スルヲ
以テ砲身ヲ固定スル連結
架体ハ心桿ヲ引ク、然ル
トキハ心桿頭部ハ坐管(甲)
ニ鉤合シアルヲ以テ之ト
共ニ緩衝板ヲ後方ニ圧
縮シ其ノ後坐衝力ヲ方向
照準機以下ニ射シテ緩衝
スルモノトス

第四節 方向照準機

第九

方向照準機ハ誘導機ト托架ニ依リテ連結架ニ連リ且ツ
昇降機トニ対シテ方向移動ヲ行フモノニシテ左ノ主要
部ヨリナル
誘導機ハ誘導機ハト架ハハンドル
誘導機ハ外周ニ刻セル直桿ニシテ誘導機
ト架ト托架ノ兩臂部ノ軸筒間ニ装入セラル
而シテ其ノ左端ハ托架外側ニ於テハンドルヲ操シテ誘
導機ト同軸ニ供ス
誘導機ハ昇降機ト上端ニ取付ケラレ其ノ水平方
向ニ刻セル刻シテ誘導機ト齒シ合ヒ其ノ左方ニハ
副機ト及ばぬヲ收容シ常ニ誘導機ト斜面ヲ圧シテ遊動
防止ニ供ス
誘導機ト托架ハ重下スル兩臂ニ軸筒ヲ裝シテ誘導機ト

12

ヲ結合シ又中央部ニハ二箇ノ円孔ヲ設ケテ緩衝機ノ結
合ニ供ス又右側上面ニハ気泡管ヲ裝シテ砲耳軸ノ水平
規正ヲ行フニ供シ左方ハ照準具裝着部ヲ有ス
ハンドルハ円形ノ体ト起伏シ得ル握リ軸ヨリナリ任意
起伏シテ回數ニ供ス

第五節 高低照準機

第十

高低照準機ハ脚ニ結合シ其ノ上部ハ方向照準機ヲ連結
スルニ重機ト式ニシテ左ノ主要部ヨリナル
昇降機ト(甲)齒車室起動齒車伝動齒車ハンドル締め
昇降機ト(甲)ハ外周ニ刻セル刻シテ昇降機ト(乙)ト結合
シ其ノ上端ハ誘導機ト結合部ヲ形成シ且締めト軸止
ス又下端ニハ制限板ヲ裝シテカタ止及昇降制限ニ供ス
昇降機ト(乙)ハ円筒形ヲナシ内部上方ニ刻セル刻シテ
昇降機ト結合シ外周ニハ刻セル刻シテ齒車室ニ結合シ外

13

筒中ニ收容セラル其ノ外
周相対面ニハ縦溝ヲ刻シ
テ伝動齒車ニハメラレ下
端ニハ(甲)ノ制限板ト同様
副筒ヲ装ス
齒車室ハ其ノ前後ニ対向
軸部ヲ有シ上方ハ伝動齒
車及起動齒車ノ收容室ヲ
形成ス、伝動齒車室下部ニ
ハめぬじヲ刻ンテ昇降ぬ
じ(乙)ノ結合ニ供ス又下端
ニハ外筒ヲ装ス
車ハ兩者直角ニカミ合
ヒ蓋ぬじヲ以テ圧定セラ

起動齒車ニハ「ハンド」ヲ附シテ回転ニ供シ伝動齒車ハ突
起部ヲ以テ昇降ぬじ(乙)ノ縦溝ニハメラレ締ぬじハ之ヲ
起シテ誘導ぬじ相当部ヲ緊定結合スルニ供ス

第十一 高低照準機ノ機能

「ハンド」ヲ旋回スルトキハ起動齒車、伝導齒車ヲ旋回シ之
ト結合セル昇降ぬじ(乙)ヲ旋回シツ、昇降ス一方昇降ぬじ
(乙)トカミ合フ(甲)ハたぬじナルヲ以テ(乙)ノ旋回ニ依リ更ニ
昇降ス
即チニ重ぬじ式ハ「ハンド」一回転ニ応ズル昇降量及速度
ヲ大ナラシメタリ

第六節 脚

第十二、脚ハ開閉シ得ル兩脚桿ヲ主体トシ上方脚桿ニ砲耳軸水
平規正装置ヲ有ス兩脚桿ハ脚頭ヲ以テ齒車室軸部ニハメ
ラレ閉閉ノ軸心トナシ他端ニハ「いし」ヲ附シテ土地ニ

吻入セシ以脚桿ノ駐止ニ
供ス又いしづき上部ニ於
テ鎖ヲ装シ一端ヲ任意ノ
長サニカケテ脚匣度ヲ制
限ス

第十三、水平規正装置ハたノ主

要部ヨリナル

調整めねじ、調整筒、接続め

ねじ、調整桿托筒(甲)乙、締め

調整桿

調整めねじハ円筒体ニシ

テ下方脚桿ノを以てト結

合シ下端ニハ調整筒ノ鉤

部ニ鉤セル接続めねじヲ装

シ内部ニねじヲ装シテガ

タヲ防止ス

調整筒ハ円管ニシテ脚桿

ニハメラレ調整めねじノ

回転ニ伴ヒ上下運動ヲ行

フモノトス

調整桿托筒(甲)ハ調整筒ヲ

ハメ下部外周ハ斜面ヲナ

シ此部縦方向ニハ條ノ溝

ヲ切り其ノ上部ニハをね

じヲ刻シテ締めねじ装着ニ

供シ締めねじノ運動ニヨリ

内部ノ斜面ヲ以テ托筒(甲)

ノ斜面ヲ圧迫シ調整筒ニ

射シテ緊着セシムルモノトス
調整桿ハ調整桿托筒(甲)ト外筒ノ調整桿托筒(乙)ニ軸止セラ
レル円桿ナリ

第十四 水平規正装置ノ機能

調整めぬレバ回転スルトキハ調整筒ハ上下ニ從ツテ調整
桿托筒(甲)ニ連結セル調整桿ハ外筒ヲ押曳シ高低照準機以
上ヲ左右ニ傾斜セシメ不齊地等ニ於ケル砲耳軸ノ水平規
正ヲ行フ又大ナル規正ヲ垂スルトキハ砲身ヲ支へ締固
じヲ弛メテ概略規正ヲナシタル後之ヲ緊々小量ノ修正ハ
調整めぬレバ依ルモノトス

第七節 照準具

第十五 照準具ハ本体及眼鏡ヨリナリ眼鏡ハ九四式輕迫砲

ノモノニ同ジク本体ハ元ノ諸部ヨリナル
比頭眼鏡受眼鏡受托桿 基筒托架 方向誘導ぬじ 高低誘導

第十六 照準具ノ機能

射角及射向附具ニ當リテハ予メ脚ノ水平規正装置ニヨリ
基筒前面ノ砲耳軸規正用
水準器ノ気泡ヲ中央ニ導
キ置クモノトス
一 高低照準機能 射角ヲ
附具スルニハ高低誘導
ぬじノ握リヲ回シテ托
架ノ本分画及補助分画
ニ所垂ノ角度ヲ其ヘタ
ル後高低照準機ハハンド
ルヲ操シテ照準具ノ氣
泡ヲ中央ニ導クトキハ
砲身ハ所望ノ射角ヲ其ヘラレ
タルモノトス

ニ、方向照準機能 射向ヲ其フルニハ方向誘導のじノ握リ
ヲ回シテ方向本分画及補助分画ニ所垂ノ角度ヲ指示セ
シメ、且ル後方向照準機ハンドルヲ操シテ眼鏡ヲ照準具
ニ導クトキハ砲身ハ所垂ノ射向ヲ附其セラル
而シテ射角又ハ射向ヲ其ハタル後、兩水準器ノ気泡が移
動シタル場合ハ之ヲ中央ニ修正シツ、綜合照準ヲ行
フ要ス

第八節 床板

第十七 床板ハ平盤ニシテ其ノ周辺ヲ起縁シ上面左右ニハ各
ニケノ提ゲ手ヲ装ス 又上面中央ニハ砲尾受ヲ燃接シ砲
身下部ノ支ヘトナス

第九節 属品予備品

第十九 本砲ノ属品予備品ハ附表第二ノ如シ

第二章 弾薬箱

第二十 弾薬箱ハ箱及蓋ノ主要部ヨリナリ、兩者ハ蝶番ヲ以テ連
結セラレ内部ニ弾薬一発ヲ收容ス
弾薬箱ハ九九式榴弾用ノモノニアリテハ信管ノ改正ニ伴
ヒ延期室匣ヲ收容ス
九六式榴弾用ニアリテハ一隅ニ延期室匣ヲ收容ス

めくれず

第二篇 取扱

第一章 分解及結合

第一節 通則

第二十一 分解及結合ハ前篇ニヨリ構造機能ヲ熟知シタル後
本篇ニ依リ行フベシ

第二十二 分解及結合ハ手入、検査及修理等ノ爲特ニ必要ナル
場合ニ限リ之ヲ行フモノニシテ涉リニ行フベキニ非ズ精
度ニ影響アル部分ニ於テ殊ニ然リトス

第二十三 分解及結合ニ当リテハ塵砂等ノ飛散セザル場所ヲ
選ビ規定ノ順序方法ニ依リ徐クニ行ヒ決シテ暴クヲ用ヒ
或ハ躁急ナルベカラズ又分解セル各部分ハ毀損、汚染、混着
及紛失等ヲ避クル爲適宜ノ場所ニ順序正シク配列シ置ク
ヲ可トス

分解後結合セントスルトキハ良ク部品ヲ拭淨シ適度ニ塗

油スルヲ要ス又結合後必ず其機能ノ適否ヲ検査シ置クベシ

第二十四 分解セル部品ノ結合ハ特ニ示スモノノ外分解ト反
對ノ順序方法ニヨルモノトス

第二十五 尤ノモノハ造兵廠ノ外分解スベカラズ

照準具

制限儀

第二十六 分解及結合ハ特ニ制限スルモノノ外必要ニ応ジ責
任アル將校ソノ部ヲ指定シテ行ハシムルモノトス

而シテ番発機及運搬ノ爲ニ行フ分解ヲ除ク外將校監督ノ
下ニアラザレバ行フベカラズ

第二節 運搬ノ爲ニ行フ分解

第二十七 砲ノ運搬ヲ行フ場合及第三節以下ノ分解準備トシ
テハ尤ノ五部分ニ分解スルモノトス

一 照準具

ニ連結架（方向照準機共）

三脚（高低照準機共）

四砲身

五床板

第二十八 照準具ヲ離脱スルニハ駐爪頭ヲ右方ニ圧下シツ、

之ヲ上方ニスキハツス

第二十九 砲身及脚ヲ離脱スルニハ左ノ順序方法ニヨル

一砲身及連結架下部ヲ支持シツ、締め桿ヲネジ戻シ連結

板ヲ起シテ連結架ヲ砲身ヨリ離脱ス

ニ高低照準機ノ締めネジヲ戻シテ脚ト連結架ヲ分離ス

三砲身ヲ九十度旋回シテ床板トノ鉤合ヲ解キスキハツス

第三十 運搬ヲ行フニハ左ノ如ク準備スルモノトス

一照準具ハ携帶箱ニ收容ス

ニ連結架ノ連結板ヲ緊定ス

三高低照準機ハ昇降ぬじヲ最低位置ニ收ム

四脚ヲ閉ジ鎖ヲ脚ニ巻キ付ク

五床板ノ裏面ニ土壤附着セルトキハ之ヲ除去ス

第三節 砲身

第三十一 砲尾ハ之ヲネジモドシテ砲身体ヨリ離脱スルコト

ヲ得比ノ際パツキンヲ変形セシメガル如ク注意スルヲ要

ス。而シテ砲尾体ハ常時之ヲ分解スルトキハ磨耗、反起等

ノ原因ニ依リガ「ガ」モレヲ生ズルコトアルヲ以テ十分注意

シ且成ルベク分解セザルヲ可トス

第三十二 運搬機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

一砲身ハ水平ニ位置セシムルヲ可トス

ニ砲尾用「パナ」ヲ以テ安全筒止ヲネジハツス

安全筒止ヲ分解スルニハ同塞ぬじヲ脱シばぬ及体ヲ其

ノ室ヨリ離脱ス

三 砲尾端ノ塞ぬじヲネジハカス
 四 垂針準桿ヲ墜落姿勢トシタル後砲尾用「スパナ」ヲ以テはぬ受ヲ圧定シツ、九十度旋回シばネ受はぬ及準爪ヲ垂針準桿ヨリ出脱ス
 五 垂針準桿頭ヲオシツ、安全筒摘部ヲ左極限ニ回転シテ全筒及垂針準桿ヲ砲尾体ヨリヌキ出ス然ル後垂針準桿はぬヲヌキ出ス
 六 砲尾用「スパナ」ヲ以テ垂針ヲヌキハツス

第三

一 垂針準桿ハ斜面ヲ上方ニ向ケ垂針ハ之ニ適合スル如クサシ入ルベシ
 ニ 安全筒止ハ十分緊定シ置クベシ
 三 砲尾端ノ塞ぬじハ十分緊定シ球面ニリ突出スルコトアルベカラズ然ラザレバ射撃ノ衝撃ニヨリ分解シ得ザル

第四節 連結架

第三十四

締め筒ヲ分解スルニハ之ヲ緩メテ側面ノ孔ト締め桿ノ間に一致セシメ之ヲヌキハツス然ルトキハ締め桿ヲネジモドシテ分離スルコトヲ得

第三十五

緩衝機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル
 一 誘導ぬじ托架上面ノ小ぬじヲ脱シタル後蓋ぬじヲ脱ス
 二 はぬ室ヲ連結架体ト共ニ誘導ぬじ托架ヨリ分離ス
 三 底ぬじ後面ノ小ぬじヲ脱シタル後ばぬ室内方ノ心桿頭ヲモドシ之ヲ脱ス此ノ際坐管甲ノ鉤部ヲオシ下ゲツ、行フヲ可トス

四 心桿ヲ脱スルトキハばぬ室ヲヌキハツシ得

坐管甲同(乙) 緩衝ばぬヲばぬ室ヨリヌキ出ス

五 底ぬじハ上面ノ小ぬじヲ脱シタル後之ヲ脱ス

第五節 方向照準機

第三十六 誘導ぬじヲ離脱スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

一 誘導ぬじ左端ノ「P」ピンヲ脱シタル後ハンドルヲハス

二 軸筒(甲)ノ小ぬじヲ脱シ次イデ軸筒(甲)ヲ脱ス

三 誘導ぬじヲ回転シツ、誘導ぬじト分離シ次テ托架ヨリヌキハズ

此ノ際副ぬじハばぬノカニ依リテ飛ブヲ以テ適宜之ヲオサヘツ、離脱スルヲ要ス

四 誘導ぬじヨリ副ぬじハばぬ及止ヲヌキ出ス

第六節 高低照準機

第三十七 昇降ぬじヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

一 外筒下端ノ小ぬじヲ脱シタル後塞ぬじヲ脱ス

二 昇降ぬじ(甲)下端ノ小ぬじヲ脱シタル後制限板ヲ脱ス

三 昇降ぬじヲ若干ヌキ出シタル後昇降ぬじ(乙)ノ小ぬじヲ脱シ次テ副筒ヲ脱ス

四 昇降ぬじ(甲)ノ上端ヲ支持シツ、ハンドルヲ右転シテト共ニ上方ニ脱ス

五 締めぬじハ止ぬじヲ脱シタル後之ヲモドシテ托板ト分離ス

第三十八 齒車ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

一 齒車室後面ノ小ぬじヲ脱シタル後蓋ぬじ(甲)ヲ脱シ伝動齒車ヲヌキ出ス

二 小ぬじヲ脱シタル後蓋ぬじ(乙)ヲ起動齒車ト共ニ齒車室ヨリ脱ス

三 起動齒車ハ丸ナツトヲ脱シテ蓋ぬじ(乙)ト分離スルコトヲ得

第三十九 ハンドルノ止桿ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

一 蓋ぬじヲネジハツシ摘ノ「P」ピンヲヌキハズ

二 摘ヲモドシテ止桿ト離脱シばぬヲ分離ス

第七節 脚

第四十 水平規正装置ヲ脚桿ニハメタル儘分離スルニハ接続
のじ、小のじヲ脱シタル後之ヲモドシテ調整めのじト離
脱ス、然ルトキハ調整めのじ坐金、は旧、接続旧じ、調整筒ヲ
分離シ得、
尚調整旧じハ小のじヲ脱シテ副環ヲ離脱スルコトヲ得、

第一章 放列布置及撤去

第四十一 放列布置ハ不齊地ニ於テモ実施シ得ルモ成ルベク
平地ニシテ堅固ナル地質ヲ選ブヲ可トス
床板ハ通常前方ヲ掘リ下ケ設置スルヲ本則トス而シテ其
ノ傾斜ハ砲身ノ主垂射角ト直角ナル如ク設置スルヲ最良
トシ止ムヲ得ザレバ砲身トノ關係角度ヲ七十度迄許容シ
得ベシ、柔軟ナル土地又ハ砂地等ニ放列布置ヲ行ハシムニ
ハ砲身ト床板トノ角度ヲ努メテ直角トナル如ク留意シ且

要スレバ沈下ヲ防止スル設備ヲ施スヲ可トス、又堅硬ニ
シテ床板設備不良ナル狀況ニ於テハ床板及脚ノ後部及上
部ニ土囊等ヲ設備スルヲ要ス、

第四十二 放列布置ヲ行フニハ先ノ順序方法ニ依ル

- 一、副床板ヲ準備セラレタル場合ニ長辺ヲ一級射線ニ直角
ナラシムル如ク設置シ其ノ上ニ床板本体ヲ置ク、
- 二、砲尾体ヲ床板本体ノ砲尾受ニハメ標線ノ上面トナル如
ク砲身ヲ九十度旋回シテ之ヲ射線方向ニ向ケテ支持ス、
- 三、他方脚ノ鎖ヲ解キ高低ハンドレガ前方トナル姿勢ニテ
脚桿端ヲ約五〇糎ニ俯キ鎖ヲカケ角度ヲ制限シタル後
高低方向照準機ヲ連結ス、
- 四、連結板ヲ起シタル後床板及脚桿端ノ距離ヲ射角ニ応ジ
テ適宜ニトリ且砲身線上ニ連結架ヲ導キハしづキヲ踏
ミテ脚位置ヲ決定ス、

五 連結板ヲ以テ砲身前方ヲ抱中締め桿ヲ以テ之ヲ充分緊定ス

六 照準具ヲ装着ス

七 砲耳軸ノ水平規正ヲ成シ砲身ニ適宜ノ射角ヲ附與ス
水平規正操作ニ當リテハ調整めねじニ依ル修正ヲ尤
右平等ニ出來得ル如ク上下ノ移動間隙ヲ略シ等シクト
リ主トシテ調整桿托筒(甲)ニヨリ規正シ置クヲ要ス

第四十三 放列布置ニ關スル注意事項

- 一 昇降(甲)ノ締めねじハ十分緊定シ置クベシ
- 二 脚ノいしづき位置ハ滑ラザル如ク確實ニ緊定スルヲ要ス
前シテいしづきノ長辺ハ左(右)前方ヲ向ケ且若干傾斜セ
シムルヲ可トス
- 三 水平規正用ノ締めねじハ確實ニ緊定シ置クベシ
- 四 各部ノ結合ニ當リテハ確實ニ之ヲ支持スベシ

第四十四 放列撤去ハ布置ト反対ノ順序ヲ以テ行フモノニシテ既述運搬ノ爲ニ行フ分解ト同一方法ナリ

第三章 使用上ノ注意

第四十五 砲身

- 一 床板結合部及連結架結合部ニ打痕反起等ヲ生ゼシメザル如ク注意スベシ
- 二 砲腔ニ翼痕ニ依ル反起ノ生ゼシトキハ慎重ニ之ヲ除去スベシ

第四十六 連結架

- 一 連結板及連結架体ノ砲身接觸部ヲ保護スベシ
- 二 緩衝機ニハ適度ノ給油ヲ行フベシ

第四十七 照準機

- 一 高低及方向照準機ノねじ部及誘導ねじ托架ノ照準具室
- 二 ハ打痕反起等ヲ生ゼシメザル如ク注意スベシ且ねじ

部ニハ適度ノ給油ヲ行フベシ

第四十八 照準具
蟻部ノ損傷及各部ノガタハ精度ヲ不良ナラシムルヲ以テ
之ガ装脱及取扱ハ特ニ注意スベシ

第四十九 砲身
砲身ノ支ノヲナス脚高低照準機及方向照準機連結
架ノ各合成体ノ取扱粗暴ナルトキハガタヲ生ジ精度ヲ害
スルニ至ルヲ以テ特ニ留意スルヲ要ス 而シテ各樞要部
ニハ努メテ給油シ其ノ磨耗ヲ防止スベシ

第四章 射撃上ノ注意

第一節 射撃前ノ注意

第五十 射撃前ニハ凡ノ件ニ注意スベシ
一 各樞要部ニハ給油シ一徹機能及撃針ノ突出等ヲ檢シ置
ク 要ス又砲腔内ニハ油氣ヲ残サザル如ク拭クベシ
ニ 放列布置ノ項ニ示セル諸件ガ完全ニ実施セラレアルマ

否マヲ兵檢スベシ

三 諸元ノ決定ニ際シテハ射角ノ小ナルニ從ヒ精度ハ良好
ナルヲ一般トスルヲ考フベシ

四 装薬ノ決定ニ際シテハ射距離ノ修正ニ伴ヒ直チニ変更
ヲ要セザル如キ装薬ヲ選定スルヲ要ス

第二節 射撃間ノ注意

第五十一 射撃間ニハ凡ノ件ニ注意スベシ

一 装填ヲ行フニハ鞴部ヲ支持シツ、此ノ部迄砲腔ニサ
シ入レル後之ヲ放テバ可ナリ 而シテ墜飛ヲ行フ場合
ニアリテハ速カニ伏姿勢且照準ヲ害セザル爲亂暴ナル
装填ヲナスベカラズ

二 第一弾ハ床板吻入ノ關係上射距離及方向方共往々精度
不良ナルコトアルヲ以テ修正上注意ヲ要ス
三 射撃間床板ノ前方或ハ後方カ極度ニ没入シタル場合ハ

床板ノ傾斜ヲ修正スベシ

四方向ノ大移動ヲ行ハシムルニハ砲身ヲ支持シツ、脚ヲ所望

ノ方向ニ移動セシムルモノトス。此ノ際誘導めぬじハ

誘導ぬじノ中央ニ導キ置クヲ可トス

五、稍々長時間ニ亘リテ射撃ヲ行フ場合ハ其ノ射撃ノ間断

ヲ利用シテ各部ノ故障、緩ミノ有無ヲ檢シ要スレバ施油

スベシ。又砲腔内ノ燻渣ヲ除去スベシ

六、射撃間ノ不発ヲ生ズルコトアリ其ノ原因概ネ左ノ如シ

一、撃針ノ突出量少キカ尖頭ガ極度ニ汚レ又他物ヲ介在

スル爲

二、墜発射撃ニアタリテハ腔中或ハ彈丸ノ汚レニヨリ發

下速度遲キ爲

三、藥筒ノ不良ナル爲

不発ヲ生ジタルトキハ少時經過ノ後撃発ヲ行ヒ尚発

火ナルトキハ約十五秒時ノ後安全姿勢トナシ強藥ヲ
スキ出スベシ

七、燻發射撃ニ於テ撃針ノ突出セル儘復位セザルコトアル

ヲ以テヨク撃針準桿ノ復位ヲ確ムベシ

八、遮蔽陸地ニアリテハ砲口前ノ樹木其ノ他ニ注意シ要ス

レバ芝ヲ除去シテ過早破裂ヲ防止スベシ

第三節 射撃後ノ注意

第五十一 射撃ハたノ件ニ注意スベシ

一、射撃後ハ各部損傷ノ有無ヲ檢査シ異狀アルトキハソノ

原因ヲ探求シテ手入若クハ修理等ノ處置ヲナスベシ

二、燻渣ハ射撃後砲身全ク冷却スルニ至レバ腔壁ニ膠着シ

テ其ノ除去益々困難トナルモノナレバ成ルベク速カニ

手入スルヲ要ス。若シ射撃後直チニ手入ヲ行ヒ得ザル

トキハ稍々多量ニ塗油シ置キ後成ルベク速カニ手入ス

兵射撃後ハ各部ヲ十分手入スベシ

第五章 運搬

第五十二 運搬ハ搭載ヲナスモノトス
第五十三 駆載要領ハ附表第三ノ如シ

第三篇 保存

第一章 手入

第五十四 各部ノ手入ハ兵器保存要領ニ依ルノ外特ニ本章ノ
示ストコロニ從フベシ

第一節 日常ノ手入

第五十五 日常手入後ニ於ケル油ノ塗施區分ヲ如シ

一 防護油ヲ施スベキ部位

1. 高低照準機 昇降機(甲)(乙)

2. 方向照準機 誘導機

3. 砲尾体ハメ込部

二 前記以外ノ鉄索地部及注油部ニハスピンドル油ヲ施スモ

第五十六 注油部位ヲ如シ

一 油口ノ位置

方向照準機 誘導機(右端)

高低照準機 蓋(甲)(乙)上部

二 油孔位置

連結架 連結架体前方上部

めくれず

高低照準機 蓋閉じ(四)上部
 高低照準機 齒車室軸部
 調整めじカミ合せ部
 調整桿軸部
 脚
 第五十七 砲腔ノ手入ニ際シテハ特ニ砲尾内面ヲ拭クコトニ
 留意スベシ而シテ砲腔手入ノ際擊込機ヲ分解セザル場合
 ニアリテハバズ之ヲ擊込姿勢トナシ擊針ノ應損ヲ防止ス
 ベシ
 第五十八 方向及高低照準機ハハンドルヲ回転シテ射角又ハ
 射向ヲ変ヘツ、各部ノ旧油ヲ十分ニ拭除シタル後新ニ油ヲ
 給スベシ
 第五十九 精密手入ハ日常分解セザル部位ニハトラタムヲ塗

又齒車ニ 潤滑油ノ補足塗替ヲ行フベシ
 第六十 常用火砲ノ豫備品ニハバラワセリン又ハバトロラタ
 ムヲ塗布スベシ
 第三章 検査
 第六十一 検査ハ第二講取扱ノ部ニ於テ述ベタル注意事項ニ
 留意スルノ外兵器保存要領ニ準ジテ実施スベシ
 第六十二 検査ノ主要ナル着眼点ト如シ

砲 腔	砲 撃	砲 尾 機 体	磨 減	着 眼 点	故 障 ノ 原 因	対 策
				火 薬 燃 焼 ノ 高 熱 火 薬 燃 渣 ノ 作 用	火 薬 燃 渣 ノ 作 用	火 薬 燃 渣 ノ 作 用
張針ノ突出不足 張針準桿突箇所ノ變形 結合部ノ不正確			手入時ノ磨耗ニヨル磨耗 手入時洗桿柄ニヨル砲口 偏磨	火薬が区、高熱 火薬燃渣ノ作用	手入時ノ磨耗ニヨル磨耗 手入時洗桿柄ニヨル砲口 偏磨	交換スベシ 交換スベシ 充分緊定スベシ

区	連	結	架	機	準	照	機	準	照	脚	機	準	照	機	準	照	脚	機	準	照	機	準	照
區	連	結	架	機	準	照	機	準	照	脚	機	準	照	機	準	照	脚	機	準	照	機	準	照
緩衝機	誘導機	誘導機	誘導機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機	昇降機
機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良	機能不良
は旧ノ疲損又ハ折損 坐管(脚)ノ屈折磨損	ハ旧ヲ剥損折損 ニ誘導機ノ磨減 三軸部ノ磨減 ハ傳動齒車ノ磨減 ニ兩螺桿ノ磨減 一蓋口ノ緊定不充分 ニ兩齒車ノ磨減	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良	取扱不良 取扱不良
交換スベシ 修理若クハ交換スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ	修理若クハ交換スベシ スベシ

九七式中迫撃砲主要数量表

砲身

口径

全長

腔長

肉厚

発火様式

擊針突出量

重量

連結架(方向照準機共)

緩衝機

重量

脚

重量

一五〇粒五

一八三五粒

一六九〇粒

一四粒五

垂発及墜発

二粒五

一一八粒

二〇粒

九〇粒

三三粒五〇〇

約四〇密位

約一七〇密位

めくれず

照準具	重量	四十五斤
様式	眼鏡式	
重量	一担六〇〇	
床板本体重量	一四一担五	
副床板重量	三七〇担	
眼鏡	倍率	三倍
射物有効径		一二呎
射出瞳孔径		四呎(正負五%)
実視界		一三度
放射砲車	高低射界	八〇〇—一四三二密位
	方向射界	一八〇密位
		一九五密位
		七一〇度(副床板共)

附表第二

九七式中迫撃砲属品員数表

昭和十八年七月
第一陸軍技術研究所調製

十	面	四	提	担	担	洗	外部装著品			區	分	名	称	数量	摘
							砲	誘	砲						
字	頭		げ				砲	導	砲						
の	槌	匙	綱	袴	草	桿	被	被	蓋						
一	一	二	二	二	一	一	一	一	一						
	基本規格ノモノニ同シ	基本規格ノモノニ同シ	基本規格ノモノニ同シ			洗桿頭(乙)ハ洗桿頭入ニ柄(乙)ハ属品箱ニ装ス									
	基本規格ノモノニ同シ														
	基本規格ノモノニ同シ														

業 照 準 具 箱	属 品 箱	装 填 品									信 管 延 期 回
		品	入 收								
			撃 針 箱	撃 針 桿	は ね	撃 針 止 ば ね	撃 針 止 ば ね	誘 導 ね じ ば ね	氣 泡 管	ハ ン ド ル ば ね	
一	三 米	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
		高低照準機									
		機準照向方									
		身									
		砲									

0147

業 照 準 具 箱	属 品 箱	(続) 装 填 品									信 管 延 期 回
		品	入 收								
一	一	砲 尾 用 ス パ ナ	照 準 具 用 ス パ ナ	マ ま た ね じ 回	泥 カ キ	重 球	大 油 差	ス ピ ン ド ル 油	信 管 ス パ ナ 三 式 二 衝 信 管 用	馬 馬	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一
		砲ノモノヲ收容ス									
		九七式曲射歩兵砲ノモノニ同ジ									
		九四式軽迫撃砲ノモノニ同ジ									
		火工具ノモノニ同ジ									
		基本規格ノモノニ同ジ									
		基本規格ノモノニ同ジ									
		基本規格ノモノニ同ジ									

0146

品	装		填	品	入	收	品	入	装	品	入	收				
	ろ	う											ろ	う	ろ	う
	ろ	う											ろ	う	ろ	う
針	二	予	備	品	箱	一	一	一	一	一	一	一				
やすり柄	十	本	釘	(三四六九号)	四	一	一	一	一	一	一	一				
やすり柄	百	五十	丸	中目釘	一	一	一	一	一	一	一	一				
やすり柄	百	五十	丸	細目釘	一	一	一	一	一	一	一	一				
やすり柄	二	百	八十	丸	自在スパナ	一	一	一	一	一	一	一				
やすり柄	高	低	照	準	機	用	ス	パ	ナ	一	一	一				
やすり柄	八	ヤ	と	こ	こ	一	一	一	一	一	一	一				
やすり柄	共	通	四	ノ	モ	ノ	ニ	同	ジ	一	一	一				
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
やすり柄	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			

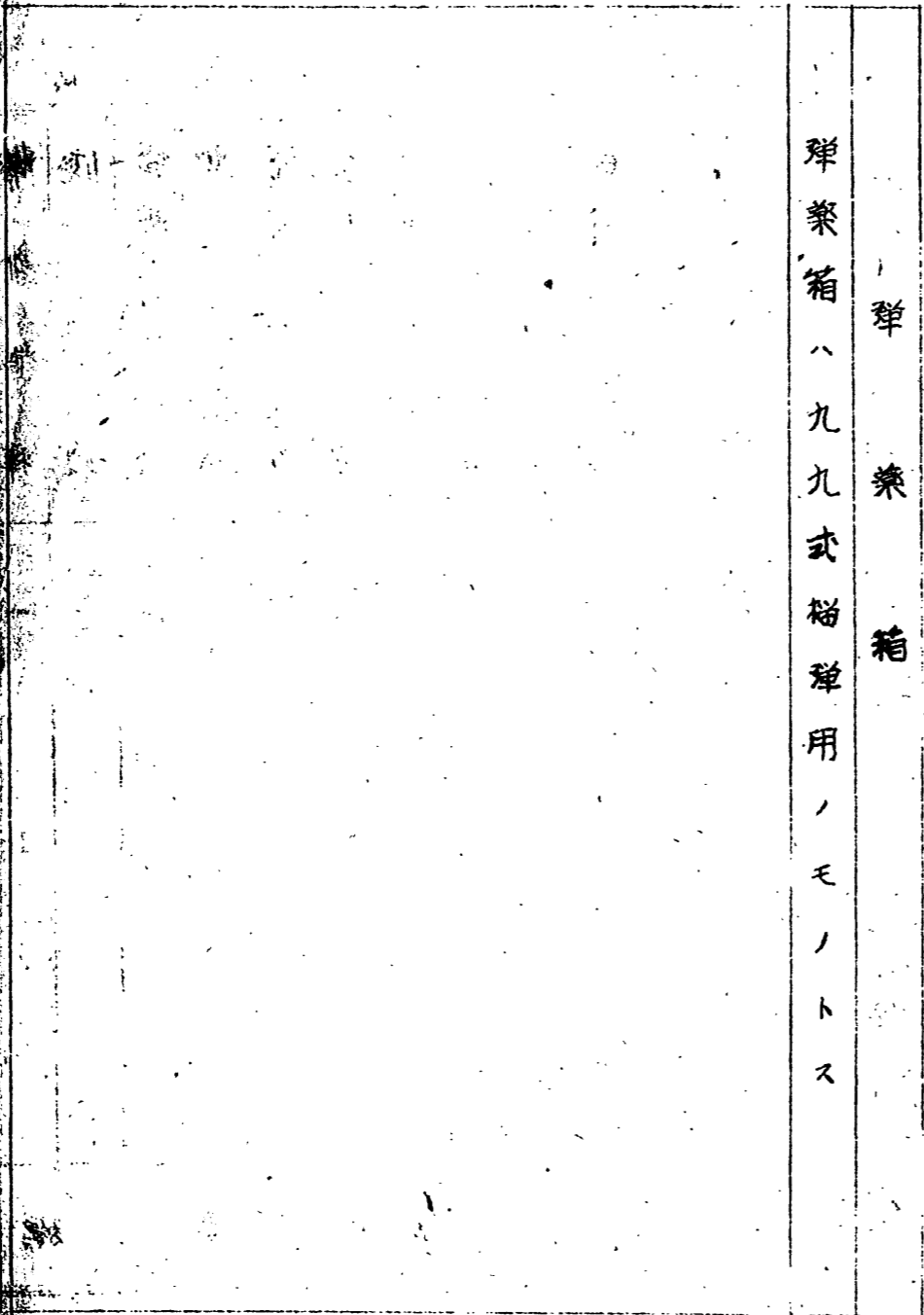
49

品	装		填	品	入	收	品	入	装	品	入	收				
	照	準											照	準	照	準
	照	準											照	準	照	準
燈	四	一	式	山	砲	ノ	モ	ノ	ニ	同	ジ	一				
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			
燈	九	四	式	三	十	七	粒	戦	車	砲	ノ	モ	ノ			

48

琴 樂 箱

琴樂箱八九式榴琴用ノモノトス



附表第三 (詳細八九式中迫重砲積載具取扱法ニアリ)

割床板用	用身砲			用板床				車 刑	九 七 式 中 迫 重 砲 積 載 具 取 扱 法 ニ ア リ								
	担	担	脚	洗	砲	属	連			提	床	積	載	品	目	負	数
割 床 板	革	棒		桿	身(被蓋共)	箱(收入品共)	架(誘導用被共)	網	板					一			
	一	二	一	一	一	一	一	二	一								
				洗桿頭(ハ)洗桿柄(ニ)ヲ除ク													

副床板用	用身碗用板床							車 別				
	副 床 板	担 草	担 棒	脚	洗 桿	碗 身(被、蓋共)	属 品箱(收入品共)		連 結架(誘導用被共)	提 げ 網	床 板	積 載 品 目
二	一	二	一	一	一	一	一	二	一			
				洗桿頭(ハ)、洗桿柄(ケ)ヲ除ク								

附表第三 (詳細八九式中迫重碗積載具取扱法ニアリ)

九七式中迫重碗積載具取扱法ニアリ

弾薬箱用	用品属及板床						
	弾 薬 箱 (收 入 品 共)	繫 馬 杭	繫 馬 索	両 頭 槌	四 角 匙	十 字 わ	携 帯 箱
六	三	一	一	二	一	一	一

殫 業 箱 用	用品属及板床						
	殫 業 箱 (收 入 品 共)	繫 馬 杭	繫 馬 索	両 頭 槌	四 足 梃	十 字 巾	携 帯 箱
	六	三	一	一	二	一	一

